



令和 7 年 1 月 23 日

岡山県不妊専門相談センター第 20 回不妊・不育とこころの研修会

『がん・生殖医療と里親・養子縁組』を開催 がん患者の将来の家族形成を考える

◆発表のポイント

- ・がん治療で使用される抗がん剤や放射線は、卵巣や精巣に作用し、卵子や精子にダメージを与えます。
- ・近年、子どもを持つ可能性を残すための卵子や卵巣、精子の凍結保存が可能になりました。しかし、そのような妊孕性温存のことを知らされなかったり、それを行う時間的な余裕がなかったりすることもあります。また、凍結保存した卵子や卵巣、精子を使い果たしても子どもを持つことができない場合もあります。
- ・今回の研修会では、子どもを持ちたいものの、それが困難な「がんサバイバー」の方々のための選択肢として、里親・養子縁組について学びます。

抗がん剤や放射線によるがん治療は進歩しており、生命予後は改善しています。しかし、このような治療は、卵巣や精巣に作用し、卵子や精子にダメージを与えます。このため、近年、子どもを持つ可能性を残すために、卵子や卵巣、精子の凍結保存が行われるようになりました。

現在、そのような妊孕性温存療法について、がん患者の治療に関与する医師や看護師に知ってもらうための啓発も行われています。しかし、がん患者の中には、そのような妊孕性温存のことを知らされなかったり、それを行う時間的な余裕がなかったりすることもあります。

また、卵子や卵巣、精子、あるいは受精卵を凍結保存しても、妊娠を希望した時に使い果たしてしまい、子どもを持つことができない場合もあります。

そのような場合に、卵子や精子の提供を受ける場合もありますが、日本においては法律や実施体制の整備が遅れており、実施は限定的な状況です。

岡山県不妊専門相談センターが主催する不妊・不育とこころの研修会は、今回で第 20 回と回数を重ね、がん患者の家族形成に関しても、種々のテーマを取り上げてきましたが、今回は、全国養子縁組団体協議会代表理事の白井千晶先生をお招きし、初めて、がん患者の家族形成を前提とした「里親・養子縁組」をテーマに議論します。



PRESS RELEASE

<開催概要>

1. 名 称 第20回不妊・不育とこころの研修会
『がん・生殖医療と里親・養子縁組』
2. 日 時 2025年2月28日（金）18:30～20:00
3. 場 所 岡山大学鹿田キャンパス MUSCAT CUBE 3階 講義室（マスカット・キューブ）
4. 対 象 者 がん患者を支援する医師、看護師、助産師、保健師、心理士、相談員、がん患者
当事者でもあるピアサポーターの方、医療系の学生、その他、関係者を対象
5. 申込方法 不要
6. 参加費用 無料

<補足>

詳しい情報は、

岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」ホームページ

URL: <https://www.cc.okayama-u.ac.jp/~funin/>

岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室ホームページをご参照ください。

URL: <https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/>

◆研究者からのひとこと

岡山大学病院リプロダクションセンターでは、がん治療をすることになった子どもや AYA（思春期・若年成人）世代の妊孕性温存を行っています。また、岡山県不妊専門相談センターでは、そのような人々の相談や支援への連携を行っています。

さらに、中学生や高校生に学んでもらうために作成したプレコンセプションケアのパンフレットでも、がん患者への妊孕性温存についても取り上げました。

中塚研究室では、多くの研究者や学生がリプロダクションやジェンダーについて研究しています。気軽にご連絡ください。



中塚 教授

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院保健学域

教授 中塚幹也

岡山大学大学院保健学研究科

「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム事務局

（電話番号・FAX）086-235-6538



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。